

- 発達期の精神障害
- 相談面接法—来談者中心療法をふまえて—
- 交流分析—エゴグラムを通して—
- 性格検査と親子関係診断テスト
- 個人理解の方法—事例研究法—
- 自律訓練法の基礎

③ 講 師

- 福島県精神衛生センター所長 上野文彌
- 千葉市立第二養護学校長 向後正
- 福島県立医科大学神経精神医学講座副手 遠藤正俊

(2) 高等学校教育相談講座

① 期日・人員等

- ア 1次 1班 8月6日～8月9日
- 2班 10月1日～10月4日
- イ 1班 高等学校教員 19名
- 2班 高等学校教員 22名

② 主な内容

- 思春期の精神障害
- 相談面接法—来談者中心療法をふまえて—
- 交流分析—エゴグラムを通して—
- 性格検査と親子関係診断テスト
- 個人理解の方法—事例研究法—
- 自律訓練法の基礎

③ 講 師

- 東京都世田谷区立富士中学校長 緑川尚夫
- 福島県立医科大学神経精神医学講座助教授 八島祐子
- 福島県立医科大学神経精神医学講座講師 金子元久

(3) 中学校・高等学校教育相談講座

① 期日・人員等

- ア 2次 前期 9月3日～9月6日
- 後期 12月3日～12月6日
- イ 中学校教員 19名
- 高等学校教員 10名

② 主な内容

- 思春期問題の気づきと対処のしかた
- 性格検査の分析 ○教育相談の役割
- 交流分析—自分を知り他人を知る手がかり—
- カウンセリング実習①② ○投影法検査の分析
- ロール・プレイング ○自律訓練法と催眠療法
- 相談面接法—行動療法をふまえて—
- 事例研究発表

③ 講 師

- 明治学院大学教授 神保信一

(4) 学校カウンセラー養成講座

① 期日・人員等

- ア 2次 前期 6月11日～6月14日
- 中期 10月22日～10月25日
- 後期 1月21日～1月24日
- イ 中学校教員 19名
- 高等学校教員 12名

② 主な内容

- 教育相談の現状と課題

- カウンセリング・テーマ研究
- カウンセリングの諸理論 ○カウンセリング実習
- 検査の処理とテストバッテリーの組みかた
- 家族カウンセリングの進め方 ○思春期の精神医学
- 行動療法の基礎と実際 ○ロール・プレイングの実際
- サンドプレイ（箱庭療法）の実際
- 自律訓練法とバイオフィードバック法の実践

③ 講 師

- 筑波大学教授 原野広太郎
- 立教大学教授 平木典子
- 東京理科大学教授 国分康孝
- 福島県立医科大学助教授 八島祐子

## 第3節 教育研究

### 1 学校の教育目標と教育課程に関する研究

(1) 研究の要点

学校の教育目標は、学校経営のかねめであり、学校のあらゆる教育活動をとおして達成すべき教育の「指標」であると考えられるが、各学校において、一人一人の教師が、教育目標の重要性に対する認識にたつて、教育課程を編成したり、また児童生徒の教育活動そのものの中に教育目標を関連づけているかどうかということに対し、多くの問題点が指摘されているところである。

本研究は、この問題の解決を目指し、第1年次の本年度は、教育目標に対する意識や、教育目標の諸指導計画への具体化の程度について、アンケートによる実態調査を行った。その結果、教育目標の必要性に対する意識が必ずしも高くないことや、教育課程の編成・実施・評価に当たって、また諸指導計画の立案や実践・評価の際に必ずしも教育目標を意識し関連づけているとはいえないというような問題点を数多く把握し、その考察を行った。

(2) 研究主題

学校の教育目標と教育課程に関する研究（3年研究）

(3) 研究の概要（第1年次）

- ① 研究の構想 ○教育目標具現化の現状について
- 研究の視点（教育目標の主体性・地域性・構構性・循環性）の設定
- ② 教育目標に関する調査と考察 ○実態調査問題作成
- 調査対象抽出（教諭）小（340名）中（142名）高（110名） ○調査実施と考察
- ③ 紀要「学校の教育目標と教育課程に関する研究」刊行

### 2 学習指導と評価に関する研究

(1) 研究の趣旨

児童生徒一人一人の学力を伸ばすためには、それぞれの個性や能力を十分に理解し、より確かな授業を具現することが大切である。そのためには、評価を教育活動の一環としてとらえ、評価の機能を生かした授業を展開していくこ